

小樽港 だより

2022 年
No.21

発行：小樽港貿易振興協議会（Otaru Port Sales Promotion Association）



令和4年2月に小樽に初入港した新造船「SUSTAINABLE EARTH」

小樽～中国定期コンテナ航路 就航20周年

（運航会社：神原汽船株式会社 小樽港代理店：ノーススタートランスポート株式会社）

平素は格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

2021年は、新型コロナウイルスの感染拡大と長期化の影響で、海運業界はスペース不足・コンテナ不足・運賃高騰が起き、世界中で物流網への大きなダメージが出ておりました。このような状況ではありましたが、小樽港でのコンテナ貨物は概ね昨年と同様の取扱量で推移することが出来ました。

弊社のサービスは中国主要港（上海・大連・青島・天津・寧波）から日本地方港12港へのダイレクトサービスとなっており、小樽港については、上海・大連・青島からの直航サービスとなっております。長引くコロナ禍による混乱した状況下ですが、出来る限り荷主企業の皆様へご迷惑をかけない様に、物流の



平成14年に小樽に初入港したコンテナ船「ココパーム島」

正常化へ努めていく所存でございます。

本年は、小樽港就航20周年の区切りの年であり、また新造船も投入されております。長きにわたり航路を維持できたのは、荷主企業の皆様のご支援と、港湾関係者の方々のご協力によるものであり、心より感謝申し上げます。

引き続き、航路の利便性向上に努めてまいりますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

【小樽港発着航海日数】

港名	輸入	輸出
上海	6日	8日
大連	9日	5日
青島	8日	6日
台湾	14-15日	16-18日

※ 上海・大連・青島は直航サービス
※ 台湾は上海積み替えサービス

新日本海フェリー(株) ～コロナ禍でのクルージング～

(運航会社：新日本海フェリー株式会社)

現在、新日本海フェリー(株)は小樽・苫小牧東と舞鶴・敦賀・新潟・秋田を結ぶフェリーを運航しております。

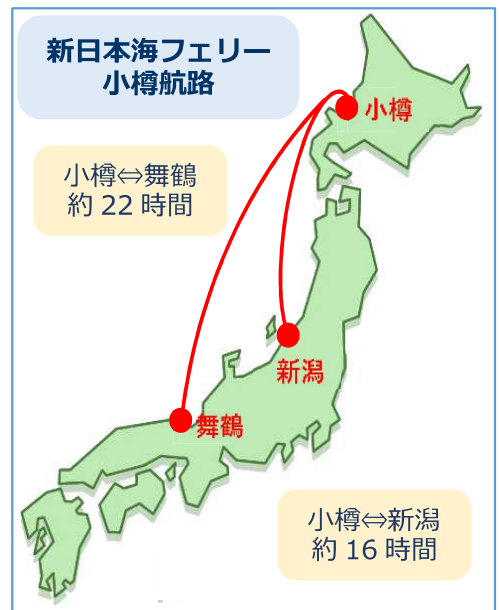
全国的にオミクロン株をはじめ新型コロナウイルスの感染が再び拡大する中、お客様が安心してご乗船いただける様に、感染症対策を徹底しております。

消毒作業、体温測定、マスク着用を徹底し、船内では定期的に外気を取り入れ、新鮮空気処理機を使用し、空気をより清潔に保っております。

一部客室は、壁面や手すり、ロールカーテンに抗菌コートを施しております。また、小樽～新潟を運航するフェリーは、客室の個室化が進んでおり、一般的な大部屋でのご利用と比べると安心してお過ごしいただけるとおもいます。



船旅の醍醐味ともいえる大浴場やカラオケ、スポーツルーム等は、密を避けるために人数制限を設けておりますが、すべてご利用いただくことができます。例年、繁忙期に行っているイベントは、船室内でお楽しみいただけるものへ変更しました。今後も感染症対策に努め、1日でも早く快適なクルージングを提供できるよう取り組んでまいります。また、地域の経済発展に貢献できるよう安全運航に努めてまいりますので、皆様のご利用をお待ち申し上げます。



【小樽発着 運航ダイヤ】

小樽発 → 新潟着 月～土 17:00 発 → 翌 09:15 着	小樽発 → 舞鶴着 毎日 23:30 発 → 翌 21:15 着
新潟発 → 小樽着 火～日 12:00 発 → 翌 04:30 着	舞鶴発 → 小樽着 毎日 23:50 発 → 翌 20:45 着

新型コロナウイルスによる OPS 事業への影響

官民が連携して小樽港の利用促進に取り組む小樽港貿易振興協議会では、例年東京と札幌にて小樽港セミナーと小樽港貿易振興懇親会を開催しておりますが、2020年2月の札幌での開催以降は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、いずれも2年連続で開催中止となりました。

また、中国など対岸貿易に係る外国への訪問事業についても、2年連続で実施できなくなるなど、当協議会の事業にも大きな影響が出ております。

2022年は、新型コロナウイルスの感染状況の推移を見つつ、事業の実施に努めてまいります。

「穀物供給基地」としての小樽港 ～小麦の取扱が堅調～

小樽港貿易振興協議会では、小樽港における穀物関連貨物の現状と今後の構想について、専門部会を設置して調査研究を進めており、今期は「穀物に関連する小樽港の保管施設や荷役設備等の現状の把握と研究」「道産小麦の動向把握と小樽港での道産小麦の取扱いについての研究」をテーマに部会活動を進めております。

小樽港関連の倉庫への入庫品目は「麦」が最多で、年間 15 万トン前後で推移しております。

特に近年は道産小麦の人気の高まっており、輸入小麦とともに入庫が堅調に増加しております。

部会としても、人気の道産小麦の取扱いの現状を的確に把握し、小樽港並びに保管倉庫にとって有益となるような方策の研究を進めてまいりたいと考えております。

また、昭和 46 年に設立された「小樽倉庫事業協同組合」も設立 50 周年を迎えました。小樽港には、同組合や倉庫会社保有の穀物受入のシンボルともいえる巨大サイロが存在しておりますので、これらを有効活用し、小樽港における穀物の安定的な取扱いが図られるよう、研究を進めてまいります。



小樽港港湾計画が改訂されました（令和 3 年 12 月）

小樽港の港湾計画は、平成 9 年の改訂後、20 年以上経過し、我が国を取り巻く経済・社会情勢や本港の利用状況等が大きく変化し、その計画と現状の港湾利用に乖離が生じていたため、本港の開発、利用及び保全を行うに当たっての指針となる港湾計画を令和 3 年 12 月に改訂しました。

改訂した計画では、令和 2 年 12 月に策定した小樽港長期構想で掲げた将来像「ひと・ものが世界と行き交う北海道日本海側の物流・交流拠点 小樽港」を実現するための方針や、計画の目標年次である令和 10 年代後半における取扱貨物量・船舶乗降旅客数等及び目標を達成するための港湾施設の規模や配置等を定めております。



○港湾計画の方針

(1) 物流・産業の基盤強化

- ①日本海側フェリー拠点の形成
- ②北海道日本海側における穀物基地の形成
- ③多彩なネットワークで結ばれる対岸貿易拠点の形成
- ④沖合・沿岸漁業を支える水産活動基盤の形成

(2) 観光・交流の基盤強化

- ①北海道日本海側におけるクルーズ拠点の形成
- ②北海道のマリンレジャー拠点の形成
- ③観光都市にふさわしい交流空間の形成

(3) 安全・安心の基盤強化

- ①道央圏日本海側の防災拠点の形成
- ②円滑な港湾活動を支える港湾空間の形成

※改訂内容の詳細は小樽市ホームページをご覧ください。(<https://www.city.otaru.lg.jp/docs/2021112400050/>)



水産庁漁業取締船「白竜丸」が小樽港に定係されます

2022年4月から、水産庁の漁業取締船「白竜丸」が小樽港に定係されることとなります。

水産庁では、近年、日本国周辺水域で外国漁船の違法操業が広域化していることから、取締体制の強化を図るため、新たに漁業取締船を建造するとともに、現在東京港に定係されている「白竜丸」を、日本海大和堆周辺水域やオホーツク海域での取り締まりを強化するために小樽港に定係されることになったものです。

白竜丸は、全長84.22m、幅12.50m、総トン数1,598トンで、監視カメラ、10名が乗船できる取締艇、電光掲示板、放水銃など、取締に必要な様々な装備が設置されています。漁船の取締に特化した任務であるため、漁業に関する知識が豊富な乗組員が多く、約30名の乗組員の中には、小樽水産高校や国立小樽海上技術学校出身者もおりますので、この度の小樽港への定係を契機に、これらの教育機関や市民との交流が更に深められるよう小樽市としてもサポートしてまいります。



小樽港に定係される白竜丸（水産庁ホームページより）

クルーズ船受入動向と第3号ふ頭再開発について

新型コロナウイルス感染症の影響により、2021年につきましてもクルーズ船の小樽港への寄港が全てキャンセルとなりましたが、日本国内では国内船の運航が徐々に始まっており、国外でも一部地域で運航が再開されております。

こうした中、小樽港では昨年「小樽港クルーズ船受入協議会」を設置し、今後のクルーズ船の受入に際しては、保健所を含む地域の関係機関の事前合意を得た上で受け入れることとしております。

また、感染症対策ガイドラインに沿った対応を実施するとともに、「小樽港へ入港するクルーズ船に求める条件」を策定するなど、安全・安心なクルーズ船の受入ができるよう努めております。



工事が進められている第3号ふ頭

第3号ふ頭では、大型クルーズ船の受入環境を整えるための施設整備が進められております。令和4年度は引き続き、岸壁の改良工事が進められるとともに、大型バス駐車場やクルーズターミナルの整備、基部緑地の整備も進めます。

また、第3号ふ頭と周辺区域を賑わいのある国際交流空間とするために、小樽港臨港地区内の分区条例の改正が行われたほか、既存の物流機能を維持しつつ、交流空間として賑わいの創出を図るための具体的な施設整備の方向性について議論を進めており、今後順次施設整備が進められていく予定です。

小樽港貿易振興協議会（OPS）

〒047-0007 小樽市港町4番2号 TEL(0134)23-1107 FAX(0134)23-1109 小樽市産業港湾部港湾室内

【E-mail】 kowan@city.otaru.lg.jp 【ホームページ】 <http://www.city.otaru.lg.jp>

※当協議会に対するご意見・ご要望、また、各種情報等がございましたら、上記までご連絡くださいますようお願いいたします。